

★
輝け!

地域農業の担い手



③

就農し、現在2年目となる。

「まずは栽培管理技術を

や室内温度の調製などをしてしながら、日々作業している。

近隣生産者の下で2年間の研修を経て2024年に

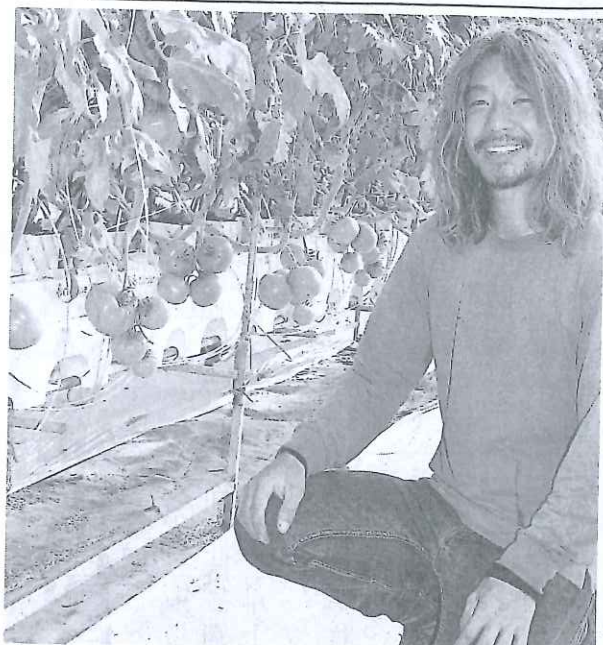
体得して安定的な生産を目指すのみ」と話す前川さん。気候に応じたかん水量

労働力確保のため、福祉事業所にトマトの下葉かき作業を依頼している。JA

【長生】白子町の前川英人さん(42)は、ロックウールでトマトを通年で30℃栽培し、パートタイマーの雇用を含めて5人で管理している。

以前はサービス業などの仕事をしていたが、何か自分の手で「モノ」を作る仕事がしたいと農業へ進むことを決意。栽培管理の奥深さや難しさに魅力を感じ、長生農業独立支援センター協議会の相談会へ参加したことがきっかけとなり、長生地域でのトマト栽培につながった。

白子町 前川英人さん



栽培中のトマトと前川さん

は、手入れの遅れが病気や収量減につながる心配も回避でき、貴重な戦力となっている。

前川さんが栽培する「長生トマト」は、歴史のあるながいきブランドの主力品目。生産者が長年培った技術で、品質も高くおいしいと評価も高い。そんな伝統のあるトマトを守るために、たゆまぬ努力を続けている。

「今後は、ハイワイヤーや環境制御が行き届くようなハウスを建築し、最先端なトマトを生産したい」と意気込んだ。

農福連携し労力確保